

第1回あり方検討委員会における議論の論点整理

【前提】

- 新設される西知多総合病院は、知多半島医療圏北西部に求められる2次救急医療や質の高い医療サービスを安定して提供し、地域の医療機関が安心して患者を紹介できる地域完結型の中核病院を目指す。

【論点1】

- 東海市・知多市には、特に回復期、慢性期の病床数が不足していることから、回復期、慢性期の病床整備が必要となるのではないかと。
また、新設される西知多総合病院が急性期治療の機能を十分に発揮していくためにも、連携（受皿）病院としての病床の整備が必要なのではないかと。

【論点2】

- 平成26年度の診療報酬改定により新設された「地域包括ケア病棟」について、どう捉えるべきかと。

【論点3】

- 在宅医療の充実に向けた取り組みや西知多総合病院等と在宅医療を担う医療機関との連携をどのように進めるべきかと。

【論点 4】

- 介護施設については、設置状況や実質的な待機者数を踏まえると、ある程度充足していると考えられるものの、今後の高齢化の進展を見据えた施設整備が必要となるのではないか。

【論点 5】

- 医療、介護、福祉の連携について、具体的にどのように進めていくべきと考えるか。また、行政が担うべき役割には、どのようなものがあるか。

【論点 6】

- 上手な病院のかかり方について、市民レベルでの検討も重要であり、特に西知多総合病院に対する急性期治療の役割の十分な理解が必要となるのではないか。